

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13191

研究課題名（和文）若手外国人研究者のキャリア構築に関する研究

研究課題名（英文）Research on Career Development for Early-career Foreign Researchers

研究代表者

蒋 妍（Jiang, Yan）

早稲田大学・大学総合研究センター・講師（任期付）

研究者番号：90779414

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、若手外国人研究者が日本でのキャリア構築にかかわる政策・現状・課題を明示し、キャリア支援に関する知見を提示することを目的とする。研究は、日本の社会文化的状況特に今の研究者たちのキャリアパスの現状の複雑性、及び政策上（FD、TAやアクティブラーニング）において教育面を中心にサポートしている現状を明らかにした。さらに、TEMという手法を用いて若手外国人研究者自身の意味世界と社会文化的状況との関係性から彼らにとってのキャリア構築経路の多様性を描いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日本における大学教員のキャリア構築の多様性および政策上の教育力を中心としたサポートを行っている現状を示した。これらのことは、外国人研究者だけでなく、研究職を目指している日本人にとっても有用であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to elucidate the policies, current status, and challenges associated with career development for young foreign researchers in Japan, and to provide insights into career support. The research revealed the socio-cultural context in Japan, specifically the intricacies of career paths for contemporary researchers, and shed light on the current state of educational support within policy frameworks such as faculty development (FD), teaching assistantship (TA), and active learning. Furthermore, the TEM methodology was employed to depict the multifaceted nature of career trajectories for young foreign researchers by examining their interplay with their individual semantic worlds and sociocultural contexts.

研究分野：大学教育

キーワード：研究者 キャリア支援 FD アクティブラーニング TEM

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

研究開始当初の背景

社会・経済のグローバル化が進展する中で、国際競争力を高めるために、優秀な人材を世界から集めることはすべての国に共通する課題である。その一環として、日本政府は「留学生 30 万人計画」（2008 年）、「グローバル 30」（2009 年）、「スーパーグローバル大学」（2014 年）など、様々な政策を打ち出している。それによって、留学生や外国人研究者のための受入れ環境の整備が推進されようとしている。その中で、授業・研究指導・事務運営の英語化、宿舍の運営、ハンドブックの作成や日本語教室の実施などが挙げられる（服部，2010）が、これらは主に基本的な学習環境や生活環境の整備に焦点を当てた政策レベルの支援策に止まる。一方、中村・渡邊（2013）は、労働政策研究・研修機構の調査を通じ、約 6 割の留学生が生が日本での就職を希望しながら実際の就職者は 3 割弱にとどまることを明らかにしている。また、静岡大学の理工系博士課程の外国人留学生を対象に調査した結果、約半数が日本での就職を希望している（ライアン・袴田，2015）。このように外国人を対象にしたキャリア支援のニーズが顕在化していると言える。しかし、現状では十分な研究と支援が行われているとは言い難い。また、日本に滞在する外国人に関する研究は、前述した留学生を対象とする就職に関する研究以外に、心理学的な研究（譚・渡邊・今野，2011；許，2010）が多く見られ、外国人研究者に特化した研究は数少ない。さらに、2009 年 11 月時点で、ポストドクターを対象とした調査を除けば、日本における外国人研究者の現状さえ把握されていない（文部科学省，2014）。そして、それらの研究は主に質問紙調査のような量的研究に止まり、外国人研究者（博士課程の留学生を含め）が日本で研究活動を展開するプロセスに関する研究は少ない。

外国人若手研究者は何に迷い何に背中を押されて来日を決めたのか、どのような経路で日本での研究活動を始めたのか、さらに、日本の研究環境において、どのような位置づけを与えられ、彼ら自身がそれをどのように感じているのか。特に、どのような支援を受けたのか。一方、日本で研究生活を続ける上で、促進要素・阻害要素としてどんなものがあるのか。これらを明らかにするために、外国人研究者からデータを集め、分析・把握する必要がある。

研究の目的

本研究は、若手外国人研究者の大学や研究所での研究活動を展開する経路を明らかにすることを通して、日本でのキャリア構築にかかわる政策・現状・課題を明示し、若手外国人研究者のキャリア支援に関する知見を提示することを目的とする。

研究の方法

文献調査及び外国人を対象としたインタビュー調査及びアンケート調査を行った。当初研究は 3 年間研究全体を完了させる予定であったが、コロナの影響で研究が予定通りに進められなかったこと、また自分に対して高い基準を設定したため、研究成果をまとめ、査読付き論文を出したいと思い、2 年間も延長した。最後年には、論文化の作業を行い、発表や

論文投稿を行った。

研究成果

(1) キャリア教育に関して、中国のキャリア教育に関する文献を調査し、また専門家へのインタビューを行い、その成果を本の一節としてまとめました。

(2) 教員のキャリア構築関連。

a. 複線経路等至性モデル（安田ら 2015a, 2015b, 以下 TEM）を用いて、外国人の若手研究者が日本でのキャリア構築プロセスを描くことができた。その結果の一部を学会で発表した。

b. 1990 年代以降に日本で行われた三つの教員人事改革を対象に、改革の背景、それに対する大学の対応の側面から、大学教員のキャリア及び博士進学にもたらした影響を中心に論文をまとめた。対象とした三つの教員人事改革は①任期制の導入、②准教授の職名変更、③テニュアトラック制度の導入である。これらの改革の結果、今日本では大学教員のキャリアパスが複雑な状態に落ちている。教員の昇進は伝統的なエレベーター式ではなく、米国なテニュアトラックを中心としたパスでもない。肩書き、雇用形態、昇進の面で多様性を示している。さらに、これらの改革は博士課程在籍者数の減少の要因となり、間接的に日本の科学研究のレベルの低下につながっていると考えられる。

(3) 政策上での支援や取り組み関連。

a. 2008 年には日本の大学において、教育力向上を中心とした FD が義務化されている。大学の取り組みを中心に、英語や中国語を使用して学会発表などの成果発信に努めた。さらに、東京大学、京都大学、および早稲田大学で行われている取り組みを中心に、その成果をまとめた。また、研究者の英語教育力支援の例として、早稲田大学の取り組みを中心に引き上げ、国際学会で発表した。

b. 大学教員としてキャリアを展開する上で、教育力が求められるが、欧米では院生在籍している間に TA としての訓練やサポートシステムが存在する。一方、日本では米国から TA システムを取り入れ、学部生への細やかな指導や院生への経済支援、院生の教育力向上を目的としている。博士としても TA 経験を積むことは重要である。その関連で日本の TA 制度および育成について論文をまとめた。

c. 教員の教育力向上支援に関連し、日本の大学は 2012 年から「アクティブ・ラーニング」を提唱し、実践してきた。このテーマを中心に論文をまとめた。

参考文献

- ・服部まこと (2010). 「海外リクルートメント—優秀な学生を確保するために」『留学交流』, 22(1), 8-11
- ・許桂芹 (2010). 「リスクマネジメントから見た留学生サポート」『東日本国際大学経済学部研究紀要』, 15 (1), 129-136,

- ・中村良二・渡邊博頭（2013）．「留学生の就職活動—現状と課題」『JILPT 調査シリーズ』NO. 113, 独立行政法人労働政策研究・研修機構
- ・ライアン優子・袴田麻里（2015）．「博士課程における外国人留学生の受け入れと支援—国立大学の理工系を中心に—」『留学交流』, 57, 1-12
- ・譚紅艷・渡邊勉・今野裕一（2011）．「在日外国人留学生の異文化適応に関する心理学的研究の展望」『目白大学心理学研究』（7）, 95-114
- ・安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）（2015a）. 『TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』, 新曜社
- ・安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）（2015b）. 『TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』, 新曜社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 蒋妍	4. 巻 8
2. 論文標題 日本の大学における TA 育成に関する検討（原語：日本の大学学生 助理培養現状探析）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 《通識教育評論》	6. 最初と最後の頁 191-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蒋妍	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 日本の大学における TA 育成に関する検討（原語：日本の大学学生 助理培養現状探析）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 《通識教育評論》	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蒋妍・林傑	4. 巻 0
2. 論文標題 Japanese Faculty Personnel Reforms in the Background of Policy-driven and Policy-guided Environments	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 高等教育研究	6. 最初と最後の頁 刊行予定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蒋妍・李芒	4. 巻 0
2. 論文標題 DeDevelopment and challenges of active learning in Japanese universities	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 復旦教育論壇	6. 最初と最後の頁 刊行予定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1．発表者名 蒋妍
2．発表標題 日本の大学教育改革
3．学会等名 第3回博士協会青年フォーラム（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 蒋妍
2．発表標題 若手外国人研究者のキャリア支援に関する研究
3．学会等名 大学教育研究フォーラム
4．発表年 2021年

1．発表者名 Yan Jiang and Yusuke Morita
2．発表標題 Developing a Global Faculty Development Program: Focusing on Assessment
3．学会等名 POD Network 's 45th Annual Conference（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 蒋妍
2．発表標題 日本語ができない外国人の日本における研究キャリアの構築プロセス—TEM（複線経路・等至性モデル）による分析—
3．学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 蒋妍
2．発表標題 外国人の日本の博士課程への進学経路に関する研究 ―中国人を対象とする分析―
3．学会等名 第19回大学教育研究フォーラム
4．発表年 2019年

1．発表者名 蒋妍
2．発表標題 日本のFDにおける概況と挑戦
3．学会等名 世界中のFDセンターにおける華人フォーラム（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 Jiang Yan
2．発表標題 Exploration and Challenges of Faculty Development(FD) in Japan
3．学会等名 Look Forward the Future Development of Education Exchange of Cooperation, JiLin University, Sep25th,2022（招待講演）
4．発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1．著者名 キャリア教育学会（編）	4．発行年 2020年
2．出版社 東洋館出版社	5．総ページ数 4
3．書名 『新版キャリア教育概説』	

1．著者名 蒋妍・林子博	4．発行年 2023年
2．出版社 中国科学技術出版社	5．総ページ数 20
3．書名 日本高等教育通覧	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	北京師範大学	上海交通大学		